

事業所名 グループホームうずき
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年 1月30日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
B:現職 生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉士、N-AHPA-2級、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で、陰層を意識した暮らしを大切に考え、生活が単調にならないように支援している。 ・四季折々の変化を肌で感じられる生活を目指しており、戸外での活動の機会を多くしている。 ・各種委員会が設けられているが、特にマナーについては、年間目標、月間目標を決め、サービスの質の向上に努めている。 ・入居者の自立した生活、個別性のある生活を支援することを目指しており、できることは時間がかかってもしていただき、自らがやろうとする気持ちを引き出すように支援している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・家に帰りたくて落ち着かない入居者に対しては、家族にも協力を求め、帰ってこられるような機会を作り、落ち着けるように支援している。 ・介護されることに対して遠慮をされる方には、納得の得られるような説明をして、安心して介護を受けられるように支援している。 ・居室から出てきたくない方に対しては、好きなこと、興味を引くことなど、かなう範囲で声かけをし、外に出てみようかという気持ちになるような支援を心がけている。 ・常に職員が側にいないと落ち着かない入居者に対しては、常に寄り添いながら、掃除や洗い物など、工夫して役割を持っていただくよう働きかけている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・国道沿いの利便性の良い場所にあり、法人の各施設の周囲には手作りの塀が置かれ、それらの表情はどれも温やかで、和みを感じさせる。法人の建物は、自然の素材をふんだんに使った特徴的な造りである。グループホームの入口では、塀で作られた傘立てが来訪者をやさしく迎えてくれる。外壁には手作りのプレートがはめ込まれ、ホーム内も壁面や柱一本にまで自然の素材が生かされ、温かみがある。
- ・建物周辺には、花木、桜などが植えられ、近隣には、みかんやりんごなどの果物も植えられている。入居者は、四季折々の自然の移り変わりを目・肌で感じることができる。特に、陰層を中心とした四季を愛でる生活を心がけている。訪問調査当日は、冬至であったが、「今日は、日が一番短いんよ。早く暮ような。」と、職員と入居者が家族のような会話を交わしており、穏やかに生活できていることがうかがえた。
- ・外の空気に触れながらの生活を大切にしている。暖かい季節には、毎日戸外で朝食やおやつを摂り、新鮮な外の空気を吸いながら体を動かし、満月になれば、お茶を飲みながら月を眺め、桜が咲けば桜の木下で食事を摂っている。入居当初は、居室から出たがらなかった入居者も「やっぱり外は気持ちが良いなあ。」という誰かの声につられて外に出てくるようになり、今ではみんなが外での食事や活動を楽しんでいる。職員は決して無理強いせず、入居者自らがみんなと同じように外へでてみようかという気持ちになるような支援を心がけている。
- ・年間を通して、多彩な行事が企画されており、ホームに閉じこもらない生活を支援している。近隣との交流も盛んである。
- ・業務に追われず、入居者一人ひとりのペースを大切に、個性や習慣を大切に考えた、安らぎのある生活を心がけている。また、主任の「禁止をしない介護」、「なんでもやってみよう」という柔軟な介護の姿勢は、職員に浸透し良い影響を与えている。
- ・職員は、ほとんど常勤採用であり、定着率も良い。そのため、職員間の関係が取れており、継続したケアの提供ができています。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・特に改善の余地があると思われる点は見当たらなかった。

昨年度の要改善の項目については、ただちに改善されるなど、サービスの質の向上に向けて、意欲の高い取り組みが見られた。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・過去の生活歴などから入居者の得意なことを見つたり、聞き出して、一人ひとりの力を引き延ばせるように支援している。 ・面会はカード式にし、他者の目に触れないようにしている。 ・排泄に関することなどプライバシーに関することについては、大きな声で話さず、側まで行って小さな声で話しかけるように心がけている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルが作成されており、ケアサービスの質の向上に向け、ケアの標準化を図っている。 ・年間を通して、多彩な行事が企画されており、反省・評価も記録に残して、次に繋げている。 ・ヒヤリハットの報告書があり、報告事項が発生したときには、その都度事故の発生予防に向けて話し合いが行われている。 ・入居者に対するエチケットやマナーなど、サービスの質の向上に向けて毎月目標を決めて取り組んでいる。 		